

平成26～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～長野県～

目的

- ・英語教員の指導力の向上及び学習指導要領に沿った授業改善の推進
- ・英語教育における校種間格差をなくすための継続的な視点を踏まえた中高連携事業の推進

取組の内容

- ・指導力向上に向けた取組(研修会・周知事業)
指導力向上研修(LEEP)、校内伝達講習(小学校)、教育課程研究協議会の充実、アップスキルプロジェクト研修会の開催、周知活動(教育指導時報・広報用チラシ等)、CAN-DOリスト長野県モデル作成、研究収録の発行、外国語指導助手等の各種研修会の充実等。
- ・研修協力校における中高連携研修
2つの地域における中学校・高等学校合同チームによる連携研究、公開授業、研究発表。

成果③

- ・中学校・高等学校での授業改善の進展
授業内での英語の使用率の向上
(授業内での発話の半分以上の率(教員))
中学校 H27 57.4% → H30 64.5%
高等学校 H27 31.1% → H30 40.1%
- 研修協力校での実践や先進校の授業実践の公開等の周知を通して 徐々に授業改善の成果が表れている。

成果①

・求められる英語力を有する生徒の割合の向上

中学校(CEFR A1程度)
H27 33.7% → H30 39.3%

高等学校(CEFR A2程度)
H27 35.0% → H30 38.1%

授業改善を進める中で、生徒の英語力も少しずつ高まる傾向にある。

成果②

・CAN-DOリスト形式による学習到達目標の設定状況

中学校
H27 22.5% → H30 100%

高等学校
H27 84.8% → H30 100%

中学校・高等学校ともに設定済み。

今後の課題・方向性

- ・更なる授業改善の推進
各校の英語の使用率を更に伸ばす必要がある。
- ・CAN-DOリストの設定及び運用の促進
県内各校で設定済みの到達目標について、実質的な管理運用を進めるよう指導を進める必要がある。
- ・5技能を適正に測る評価の実践
生徒の英語力を適切に測定するために、パフォーマンステストの定期的な実施の促進と、その実施方法について研究を進める必要がある。

平成26～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」

～ 長野市立西部中学校 英語科 ～

現状の課題と課題解決のための手立て

・生徒自らが意欲を持ち主体的に学習を進めることのできる授業展開

過去にスピーチDVDレターの交換、高校教諭による出前授業、中高相互の教師による授業見学、中高の授業展開や指導方法の研究などを行ってきた。本年度は、それらを踏まえ、生徒が主体的に学べる授業展開を心がけ、中高の授業見学と意見交換を行いながら、授業改善を行っていく。

具体の取組の内容

● 外部試験(英語検定)などを利用した取組

- ・積極的に英語検定の受検を勧め、より上の級を目標とすることで意欲や動機を高め主体的な学びに繋げる。
- ・英語科全職員で3級以上の面接練習を複数回行うなどサポートをしていく。

● 高校からの出前授業、中高相互の授業見学

- ・高校の先生による中学での出前授業や、中学校、高等学校の教員が相互の学校に授業見学に行き、生徒への聞き取り調査や、意見交換を行う。

● 中高相互の生徒交流

- ・身近な高校生に授業に来てもらい一緒に授業をすることで、中学生にとっては高校生が英語を話す姿から、高校生にとっては中学生に英語を教えることで、より英語を身近なものと感じ興味を持てるきっかけとする。

成果①

本事業が行われる前は、本校の外部試験(英語検定)の受検者はおよそ全校の1割程度であった。本事業が始まったH26年度から受検率が次第に高まってきた。

H26年度 16.9% H27年度 18.7%
H28年度 14.5% H29年度 17.7%
今年度はより多くの生徒に積極的に受検を勧めてきたため、受検率は20%に達し、190名の生徒数に対し、受検者数は73名(38%)まで増加し、特に2年生で3級にチャレンジする生徒が増加してきた。

成果②

過年度には何度か長野西高校の英語科に来てもらい、主に中学3年生を中心に、出前授業という形で授業を実施した。生徒の様子からは、実際に自分たちが行くかもしれない高校の教員の授業ということで緊張感を持って取り組む姿が見られた。また、生徒の感想からは「実際の高校でどのような授業が行われているか分かった」という声や、「中学と違い自分でしっかり考えて解かなければいけない問題が多かった」など、今後自らがどのような英語力をつけるべきか見通しを持つことができた。

今後の課題・方向性

協力校である長野西高等学校の教員による出前授業や、外部試験を大幅に取り込むことで、生徒たちの英語に対する興味や関心は高まってきているが、主体的な学びまで繋げていくにはまだまだ不十分な点がある。今後は中学・高校間の教員による意見交換ができる機会をさらに増やし、授業における指導力向上に繋げていきたい。また、今年度計画のみで終わってしまい、実際に行うことができなかった中学生と高校生による生徒同士の交流授業が計画的に実施できるように、今後の連携をさらに高めていきたい。

平成26～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」 ～上田市立第三中学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・中3では希望の進路実現を目指すため、個のレベルに即した学習内容と進度が求められる。
- ・月2回程度の習熟度別指導を取り入れることで、必要な生徒に発展的／基礎的学習を実施することが可能。

具体の取組の内容

《平成26～29年度》

- ・コース別授業(2学級⇒発展・普通・基礎の3コース制) 3年生で週1回計画 ⇒実績月2回程度
- ・染谷丘高校国際教養科教諭を招いて、発展コースの指導を実施
- ・普通コースおよび基礎コースの指導は、中学校英語科教諭が担当

《平成30年度》

- ・コース別授業(1学級⇒発展・普通の2コース制) 3年生で隔週1回計画⇒実績月1回程度
- ・上田染谷丘高校国際教養科教諭を招いて、発展コースの指導を実施
- ・普通コースの指導は、中学校英語科教諭がTTで担当

成果①

《発展コースのメリット》

- ・英語の楽しさがわかった。
 - ・即興的に話す訓練が良い。
 - ・ブレン・ストーキングで作文するのが有効だった。
 - ・自分の考えを英語で表現することに慣れた。
 - ・既習の文法をフル活用できた。
 - ・テストや英語検定で成果が出た。(アンケートより、H30.12.13実施)
- 意欲面学力面ともに有効

成果②

《基礎・普通コースのメリット》

- ・通常授業ではできない基礎的なことを復習できた。
 - ・自分に合うペース、内容だった。
 - ・普通授業ではついていけないが、コース別は大丈夫。
 - ・少人数なので集中できる。
 - ・個別指導でよくわかる。
 - ・友達と話し合っている。
- (アンケートより、H30.12.13実施)
- 充実した学びの展開が可能

今後の課題・方向性

- ・コース別はどのコースの生徒にもおおむね好評で効果があるが、通常授業の進度との兼ね合いが重要。
- ・コース別を月2回程度確保するのが適当と思われる。中高双方の行事によってできない日があるので、計画段階では週1回予定するのがよい。
- ・学習内容は、進度への影響を減らすため、中学教科書のDaily SceneやPresentationを中心に扱うのがよい。

現状の課題と課題解決のための手立て

・生徒自らが意欲を持ち主体的に学習を進めることのできる授業展開

過去にスピーチDVDレターの交換、高校教諭による出前授業、授業見学、中学生が高校進学時に授業で戸惑わな
いたための中高での授業形式統一の研究などを行ってきた。本年度は、それらを踏まえ、生徒が主体的に学べる授業
展開を心がけ、中高の授業見学と意見交換を行いながら、授業改善を行っていく。

具体の取組の内容

●中長期的な目標を示した授業の工夫

・各Lesson毎の目標に応じ他教科との連携による授業

教科書で仏像に関するLessonがある。そこで、社会科の教諭と協力し、文化財保護への関心を深めることにつなげる。

・学期の目標を決めての授業

アメリカの偉人に関する教材を扱う際に、リンカーン大統領、ローザ・パークス、キング牧師など人種差別に関する項目
を連続して行うことにより、より深い学習ができるように工夫する。

●中高相互の授業見学

・中学校、高等学校の教員が相互の学校に授業見学に行き、生徒への聞き取り調査や、意見交換を行う。

社会科教諭とのT.T



成果①

一つのテーマを深く学ぶことにより、そのテーマはもちろん、それを理解し伝える英語をもっと学んでいきたいと考える生徒が増えてきた。

生徒アンケートより

・今まで黒人差別をはじめ世界の人権にかかわる問題を扱った授業を受けてきて、自分の知識が広がったと同時にもっと知りたいと思った。

・私はもっとたくさんの世界にある問題や歴史、知らないことを知っていききたいなど改めて思いました。英語はそれを学ぶために必要不可欠だからこそ、もっとがんばらなければ・・・と思いました。

成果②

過去に本校教諭による出前授業を受け入学してきた生徒たちはより意欲的に授業に参加している。

また、中学校では電子黒板などを積極的に活用しているが、本校でも本年度から導入されたプロジェクターなどを用い、視聴覚教材の利用が増え、生徒の理解に役立っている。

今後の課題・方向性

協力校である西部中学校からの生徒は本校教諭の出前授業などにより、入学前より本校の授業などに関心を持ち、授業にスムーズにはいることができています。

これらの成果を活かし、英語科全体で協力してさらに授業改善を行うことにより、他の中学校から入学してくる生徒たちも同じように授業に早期に慣れるよう今後も検討をしていきたい。

しかし、中学校では少人数で手厚い指導がなされており、高等学校でクラスサイズが大きくなり生徒の中に戸惑いがあるようである。生徒の不安を軽減できる授業展開を今後も検討していく必要がある。

平成26～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」 ～長野県上田染谷丘高等学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・大学進学率の高い高校での英語授業への、スムーズな接続を図るためのブリッジとしての役割を果たす。
- ・4技能のうち、特にスピーキング、ライティングのアウトプットスキルの向上を図る。

具体の取組の内容

- ・年7コマ(50分)×4講座 高校教員が中学校へ出向き、高校での授業内容をもとにした授業を展開する。
- ・対象生徒:中学校3年生(78人)、習熟度別発展コース選択者
- ・各授業の中心となる活動
 - 1回目...教員の自己紹介プレゼンテーションを聴き、まとめた後その内容をサマライズしペアに対してリテリング活動
 - 2回目...日本文化を紹介するための原稿作成(ライティング)と、その内容を相手に伝えるスピーキング活動
 - 3回目...サマリーライティングの書き方講義、演習
 - 4回目...中学生が実際に使っている教科書英文を素材にリテリング、サマリーライティング活動(1回目～4回目のまとめとして)
(中学教員向け研究授業)
 - 5回目...プレゼンテーション活動(修学旅行で訪れた見学地の紹介プレゼン)の説明、ブレインストーミング
 - 6回目...原稿作成、添削指導、スピーチ練習
 - 7回目...相手を変えて何度も繰り返すプレゼンテーション活動、相互評価

成果①

○課題に対する生徒の意識変化

(参考)授業開始時の英検取得者(/78人)

2...1人 pre-2...5人 3...12人 4...21人

○1回目の授業開始時アンケート(%)

| | 得意 | やや得 | 普通 | やや苦 | 苦手 |
|---|------|------|------|------|-----|
| S | 6.4 | 23.1 | 35.9 | 25.6 | 9.0 |
| W | 12.8 | 20.5 | 30.8 | 28.2 | 7.7 |

○4回目授業終了時アンケート(%)

| | 1 | 2 | 3 | 4 |
|---|------|------|------|------|
| S | 17.1 | 42.1 | 26.3 | 14.5 |
| W | 22.4 | 36.8 | 23.7 | 17.1 |

1...かなりできるようになった 2...できるようになった 3...
ややできるようになった 4...変わらない

半数以上の生徒が能力の伸びを実感

成果②

○授業を受けた生徒の感想(抜粋)

- ・授業の中でこんなに英語を使って学んだり、聞いたり、話したりしたのは初めてで、とても楽しかった
- ・パラグラフライティングを行うと考えがまとまりとても書きやすかった
- ・自分の英語力を伸ばせる授業だった。書く力と読む力がついた。
- ・自分の使える単語を組み合わせて同じような内容を伝えることができた。簡単な言葉を使うという考えを持つとスムーズに話すことができた。
- 生徒は、楽しみながら英語力がつく授業であると認識
- 研究授業を参観した中学校英語教諭の感想(抜粋)
- ・50分の授業の中で生徒の発話する量が圧倒的に多い
- ・チェーンライティングでは、自分が書き始めた英文のストーリーがどうなっていったかを見たいと思っている生徒が多かった
- ・様々なペアとやりとりをすることで生徒同士で学び合うことができていた
- ・即興的に話す力を育てるために有効な授業展開だった
- 中学校教諭から見ても発話量や学び合いが評価された

今後の課題・方向性

- ①経年比較や追跡調査等による効果分析
連携事業によって授業を経験した生徒が、高校入学後、どのように変化したか、外部試験等の成果比較による追跡調査を行う。
- ②中3ー高1間ギャップを埋めるための高校側での対応
高校教員が直接感じた中学3年時における生徒の英語カレベルを現場に持ち帰り、入学後の授業展開に活かす。単語指導や重点的な表現指導など
- ③中学校におけるクリエイティブなアウトプット活動
教科書をベースに様々なスピーキング、ライティングの活動を通じて自分のことを伝える活動を更に取り入れていく。

30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～長野県小諸高等学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・英語の基礎の力が不足している生徒が多い。特に語彙力の不足が目立つことから、語彙指導の充実を図る。
- ・自分の考えは持つことができるが、それを英語で表現することに難しさを感じている。考えが深く、高度な生徒ほど「話すこと」に抵抗があるようである。

具体の取組の内容

- ・授業の冒頭の時間でのスモールトークの実施。
- ・1学年から授業でのリスニングドリル実施。
- ・英語検定の校内実施と2次試験対策。
 - ※1次試験に合格した生徒を英語科教員で割り振り、2次試験の面接対策をする。
- ・単語テストを週1回実施。
- ・英語表現での「英作文」の実施。授業内や夏課題でテーマを与え自由に書いてくる。

成果①

英語検定2級合格者が増加

平成29年度→4名

平成30年度→7名

(第1、2回分)

成果②

- ・生徒のアウトプットへの抵抗力が減少。
- ・グループワークやペアワークで「話始めるまでの時間」が減少したと思われる。
- ・英作文への抵抗がなくなり、時間内に一定量書けるようになった。

今後の課題・方向性

- ・語彙力の強化に向けて、単語テストのあり方について研究を深める。
- ・英語科内での研究授業の定期的な実施により、話す力の効果的な育成法の研究を進める。
- ・英語検定など外部試験を生徒の動機付けのひとつとして活用。